

# 地域史と構想

---

2007.04.23

松戸市民

飯箸泰宏

慶応大学・法政大学・明治大学講師

(株式会社サイエンスハウス代表取締役)

# 目次

- 本論
    1. 市民としての願い
    2. 農・食・医・薬&ハッピー
    3. 松戸の農地と農業
    4. 地の利
    5. 天の利
    6. 戦略
  - 地域史
    7. 地域の特徴
    8. 葛飾の歴史
    9. 海との交易の要
    10. 松戸北部高台
    11. 松戸の中央部
  - 矢切のP-S環境と可能性
    12. Politics環境の変化
    13. Social環境 ~ 矢切耕地と農家の現状 ~
    14. 矢切耕地の可能性
    15. P-S環境との調和
    16. 農業法人について
- 終わり

# .本論

# 1.市民としての願い

- 今、松戸は老齡化し、荒廃し、若者たちは去って行くばかりである。  
→昔のように路地に子供たちの歓声があふれる街にしたい。
- 土地転がしは、もうこりごりである。  
→この街にふさわしい仕事おこしを。

## 2.農・食・医・薬&ハッピー

- 地の利、天の利を見極めてこそ、次世代への戦略。
- 地の利←我が松戸の立地は、歴史を振り返ればよく見えてくる。
- 天の利←市民自立の時代(2005-2035)  
←市民参加の時代(1980-2010)
- ハッピーがなければ、人は動かない。  
←現代の市民は自助努力をハッピーという。市民の自助努力を後押しする。

# 3. 松戸の農地と農業

## 3-1. 現状の把握

- (1) この市は、千葉県内で7番目に農地面積の大きな街である。(未確認)
- (2) 過去において、この市は近郊農業というよりも都市密着型の農業で一定の成功を収めてきた。
- (3) しかし、保存・輸送技術の進歩に伴って、北海道・沖縄や中国・台湾・フィリピンなどの遠隔地や周辺諸国からの農産品の流入に価格競争の点で耐えられなくなっている。
- (4) 農業従事者の高齢化、後継者不足で、このままでは松戸の農業は数年で死滅するといわれている。

## 3-2.この市の農業の未来について

- (1) 都市融合型の農業(未来型農業)の振興。
- (2) ファーマーズ・マーケットの導入
- (3) 未来型農業には、次のようなものがある。
  - ・体験農業(クラインガルテン型、長期滞在型、短期滞在型、市民農園型、福祉対応農業療法型、その他)
  - ・高付加価値減菌栽培(水耕、砂耕、ロックウール、ハウス栽培、安全トマト、大粒イチゴなど)
  - ・千葉大式植物工場(閉鎖型植物工場)による高付加価値野菜の生産
  - ・食品加工業との融合(予約生産、自家加工など)
  - ・野菜くずのバイオマス化/有効利用
  - ・くず根野菜(イモ類)のバイオアルコール化
  - ・その他

### 3-3.未来型農業重点地域

- (1) 千駄堀(中和倉を含む)
- (2) 主水新田(西栄、七右衛門新田を含む)
- (3) 矢切(30万坪)
- (4) その他

## 3-4.補足

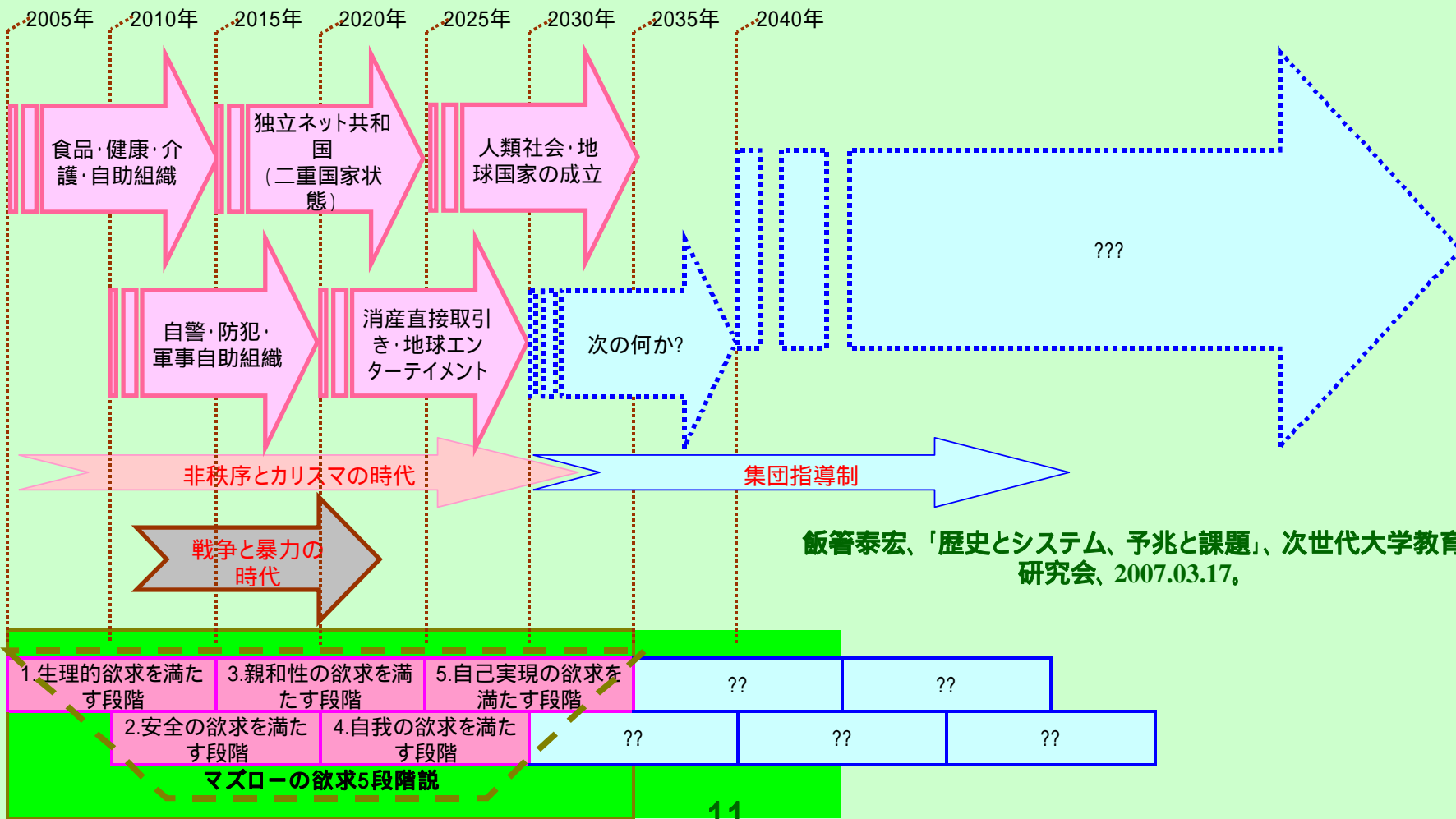
- (1) むやみに農地を宅地開発する時代は終わった。市街地の再開発で現行または増加人口を吸収することは可能なので、農地は緑のまま残るように工夫する。
- (2) 農業従事者が高齢化によって農作業ができなくなっても、貸農園の管理者兼指導員はできる。
- (3) 地域の特性、農家の考え方などにあわせて多様な方法を取り入れる。画一化は、失敗の元と考える。地域の特性、農家の考え方などに合わせた未来型農業を支援する。
- (4) 駅や幹線道路からの距離、台地か江戸川沿いの多湿地帯か船の便、陸送の便、宿泊施設が可能か否か、農家の希望はどこにあるか、によって取り入れる方策は異なる。
- (5) 株式会社、NPOなどの多様な法人による農業を支援する。
- (6) 民間資本の農業誘致に力を入れる。
- (7) 地場製品のブランド化、差別化を推進する。
- (8) 地場製品の流通のため、共同配送、共同出荷体制を整備する。
- (9) 地場の作物は、土地の人々の家庭の食卓と街のレストランで新鮮なうちに食べられるように、農産品の域内流通に留意する。
- (10) 市街地の再開発に当たっては、壁面緑地、屋上農園などによって都市の中に緑を取り入れてゆく。
- (11) 景観を含めて都市融合型の農業(未来型農業)を振興支援してゆく。

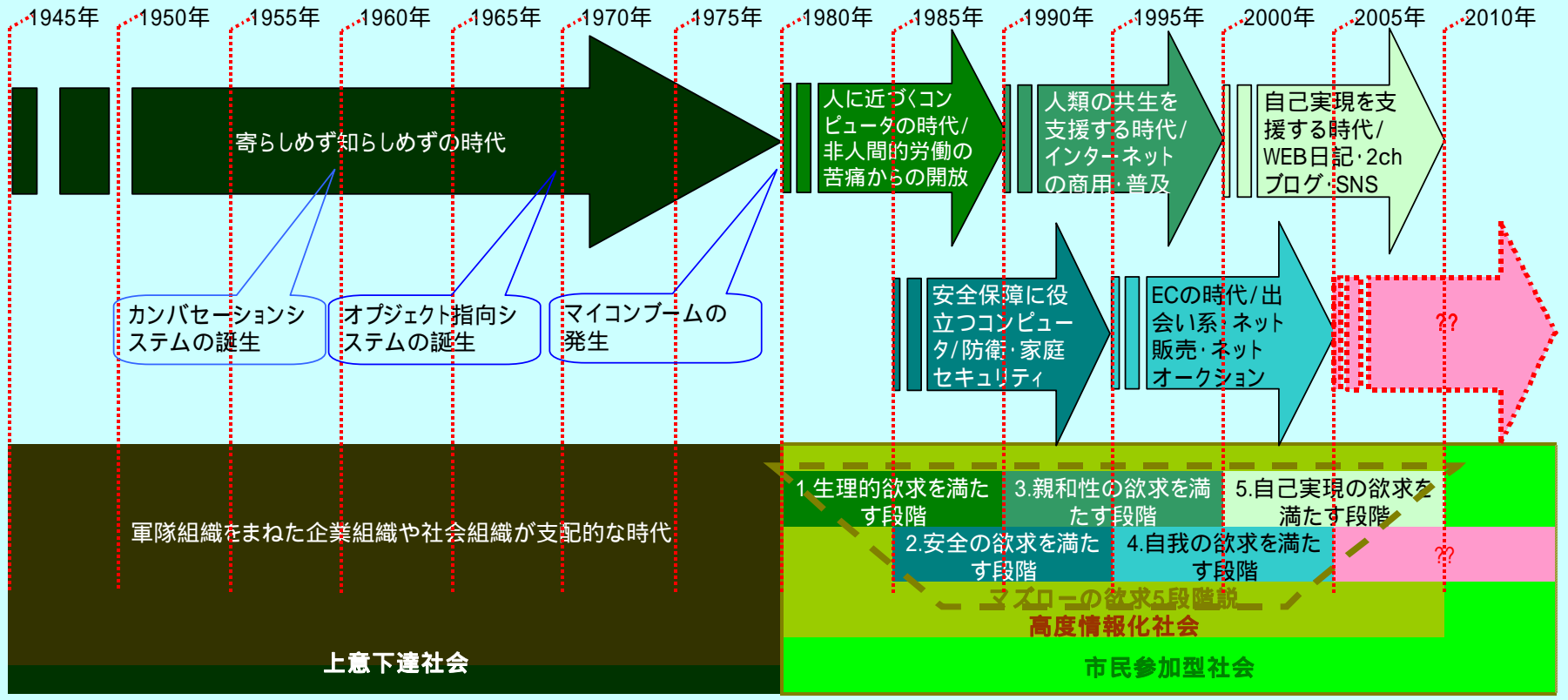
## 4.地の利

- 海の恵み、山の恵みのほかに、豊かな利根川の河川敷の地味に恵まれた。→古くから、作物の栽培が行われた。
- 海路と陸路が交錯して浅瀬と川がこれを補強していた。→交易の要衝であり、交通の要でもあった。
- 江戸に向かう米・麦・大豆などの一時貯留地でもあった。→倉庫業のほかに、食品加工業が栄えた。後に、松戸・柏・野田・三郷・吉川・川越など近隣で原材料となる大豆と麦の栽培が盛んになった。

# 5.天の利

SF小説的予想のひとつ

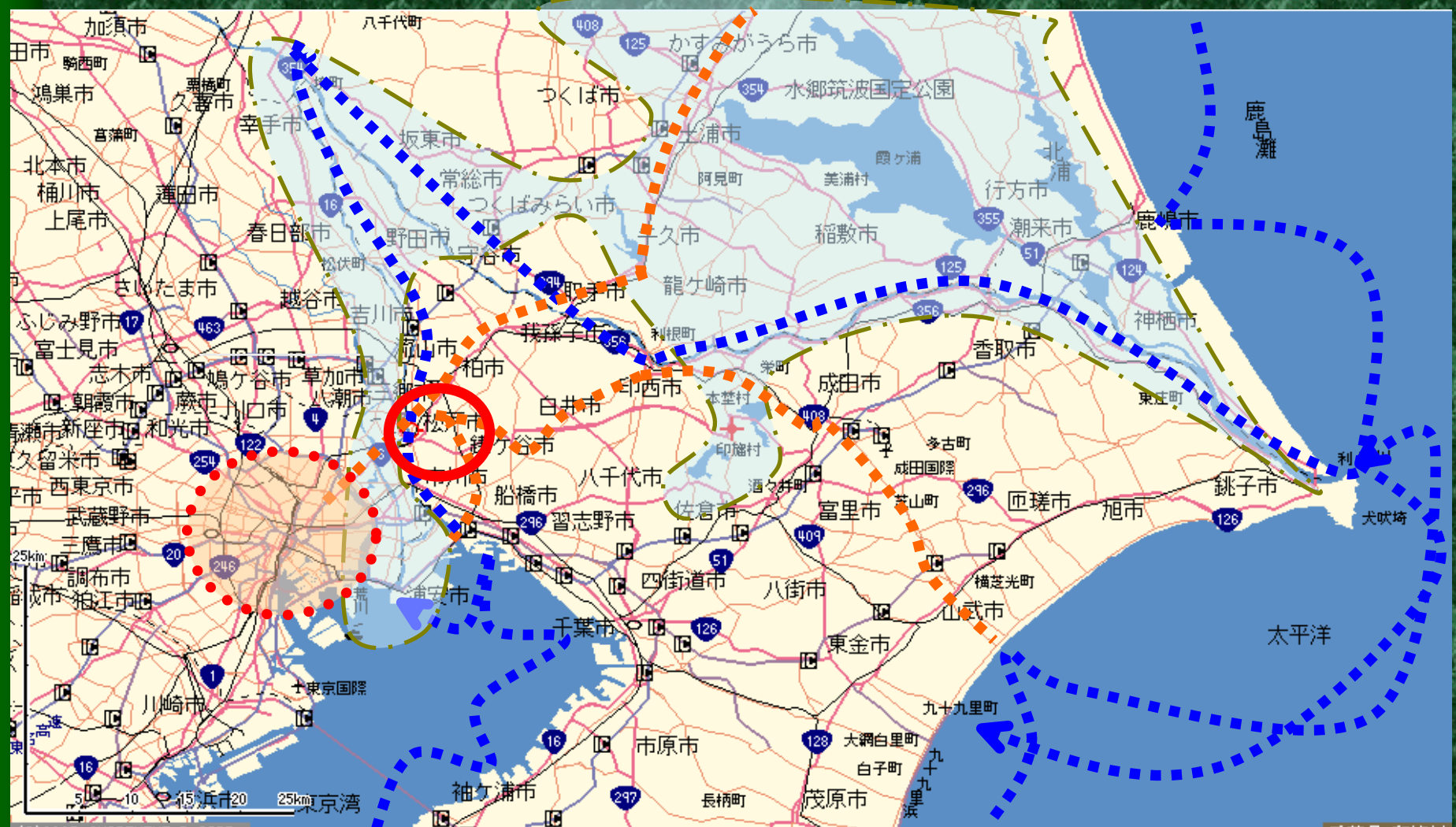




## 6.戦略

- 松戸に、農・食・医・薬&ハッピーを興す。
- 未来型農業の振興する。
- 食品加工業の誘致・振興する。
- 医歯薬工業の誘致・振興する。
- 参加することがハッピー、を常に演出する。

# . 地域史



## 7. 地域の特徴

- 松戸は平安以前(石器～縄文～弥生～)から交易の要衝であったと推定される。黒潮の民と北の民の交流の大動脈。海の幸と山の幸に恵まれた豊かな土地だった。
  - ・南、海の真間一族(海産物と交易)、国府の成立
  - ・北、山の平賀一族(米・麦と交易)、高城氏の支配
  - ・中部、窪地に潜んだ安蒜一族(米と山菜)
  - ・窪地の周囲は長く山林、江戸時代中後期に開発された。
  - ・江戸川沿いは、江戸時代元禄のころから開拓された。
  - ・街道沿い(江戸～松戸、市川～松戸、松戸～常陸、松戸～木下)は宿場・荷役事業者の町となった。
  - ・岩瀬の下(岩瀬～樋野口～栄)は荷役人夫・川越え人夫らの溜り、岩瀬の上は松戸の宿の本店の自宅街=お屋敷町
- 江戸時代の交易 水戸街道、木下街道、市川街道、利根川と江戸川
- 蔵(九十九里浜の蔵、流山・野田・関宿・利根河口の蔵)
- 流山・野田・関宿の味噌、醤油、ミリン、酒、など
- (補)稗、粟、タケノコ、栗、柿、椎の実、山芋(自然薯)、のびる、ぜんまい、わらび、つくし、縄文の米、…。弥生の米、陸稲、明日葉、ゴマ、インゲン豆。ネギ、小松菜。大豆、麦、なす、落花生、…。

## 8. 葛飾の歴史

- 約20000年前、石器文化を持った人が移住してきた。(新山遺跡=2万年前、権現原遺跡=1万2千年前)
- 9500年前、縄文土器が出現。(堀之内遺跡)
- 縄文海進がすすむ。
- 2150年前(紀元前2世紀)、稲作が出現。(木戸口・後畑遺跡)
- 6-7世紀、現在の関東平野はまだほぼ水没している状態だった。現在の関東平野を取り囲む山間部、関東ローム層の台地がかろうじて、水面から顔を出していた。
- 葛飾とは、現江戸川の東西を霞が浦北部辺りまでつづく湿地帯を指す言葉だった。
- 649年、葛飾評成立・下総国設置
- 8世紀、律令制の下で国府が下総間々に置かれた。
- 菅原孝標女、更級日記。作者13歳の寛仁4年(1020年)から、52歳頃の康平2年(1059年)までの約40年間の回想録。  
市川の歴史など。

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/kokohaku/nenpyou.htm>

# 9.海との交易の要

- 国府ができたのち、山部赤人、真間手児奈を歌う。  
吾も見つ 人にも告げむ葛飾の 真間の手児奈が 奥津城處(おくつきところ)  
葛飾の 真間の入り江に うち靡く 玉藻刈りけむ 手児奈し思ほゆ
- 真間一族は、下総の国国府を受け入れた側(服従を余儀なくされた?)、真間の入り江を拠点とする豪族だったと推定される。通商を取り仕切っていたと思われる。真間手児奈は地方豪族の娘。政略結婚に巻き込まれて自害したとしても不思議ではない。
- 海からは西の産物が入り、葛飾の水路とその両脇の陸路を通る実施と人の道があった。
- 平安時代には、ここから常陸へ向かう官道が松戸に通っていた。
- 真間から松戸、流山、柏、関宿は、常陸など日本の北端との交易の動脈であり、水辺には荷船と荷役人夫、陸路には古くから人の背と馬の背が利用された。
- 7世紀頃の古文書には、「架奴」「架弩」などの文字が見られた。長く謎だったが、「カヌー」であることが判明し、炭化した木製のカヌーの痕跡も見つかっている。死者を海に送ることなどに使われた。ポリネシアンの文化も推測されている。

# 10.松戸北部高台

- 古墳時代の終末期(6～7世紀)につくられた14基の群集墳がある。(東深井古墳群(流山市)) 早くから稲作と畑作が進んでいたと考えられる。古くから開発されたので、分家を繰り返して、戸あたりの農地は小さい。
- 鎌倉時代の下総国は、源頼朝の挙兵に功績があった千葉常胤(ちばつねたね)が守護に任ぜられ、一族が各地に広まった。
- 平賀一族は、以前から、松戸市平賀の一带を支配していたものと思われる。平賀一族は、松戸北部高台の稲作・畑作の振興の担い手(テクノラート)であった。江戸時代の平賀源内は、この子孫の6男。
- 本土寺は、平賀左近将監忠晴の屋敷内に1277年創建。忠晴の子の日朗、日像、日輪は日蓮の高弟で、本土寺は三聖人ゆかりの地。
- 戦国時代になると、千葉氏の一族から出た高城氏が大谷口に小金城を築き、東葛飾地方一带を支配した。
- 平賀氏は高城氏に服従したものと思われる。

# 11. 松戸市中央部 (松戸のチベット)

- 一方、千葉氏の一族から出た我孫子氏は印旛沼、手賀沼の近くに栄えた。我孫子氏は、戦国時代の後期、お家が廃れたのち、支流が松戸に転居し、安蒜を名乗った。松戸のチベットは、落ち武者もどきの者にとって、かろうじて生き延びられる土地であったことは想像に難くない。
- 安蒜は、千駄堀高木地域を治めた稲作・畑作の振興の担い手(テクノラート)であった。ここからは平賀源内はでなかった。
- 中央部の中心は高台に囲まれたくぼ地であり、気温が低く、日照が少ないため、江戸以前では松戸で最後に開発された土地である。
- 周囲の高台は60-120メートルもの井戸を掘る技術が必要であったので、江戸時代中期まで開発されなかった。これは、松飛台・紙敷などに同様の事情が及んでいる。
- 戸あたりの農地および山林の面積は、大きい地域である。

# .矢切のP-S環境\*と可能性

\* P-S環境 Politics&Social conditions

# 12.Politics環境の変化

- 松戸市総合計画(1998年~2020年)  
松戸市基本構想  
<まちづくりの基本方針>  
第2節 活力ある交流都市づくり  
1 交流拠点の育成・整備  
3) 川のレクリエーション交流拠点  
斜面林、河川、農地など、松戸を特徴づける自然景観のある矢切地区に、既存の豊かな水とみどりの広がりを生かした、川のレクリエーション交流拠点の整備を図ります。  
第2次実施計画(平成15年度~平成19年度)  
[http://www.city.matsudo.chiba.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT\\_template=AC020000&Cc=7d3a170f172d342](http://www.city.matsudo.chiba.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AC020000&Cc=7d3a170f172d342)
- 国策の変化=農地の宅地転用の停止  
× マンション、戸建、流通基地、遊興施設
- 国は、ファーマーズ・マーケットの推進  
農協の協力が必要
- 農業法人の株式会社解禁  
要調査。

# 13.Social環境

## ～ 矢切耕地と農家の現状～

- 矢切耕地は、すでに少なくとも30%は農家から宅地転用を見込んで売却済み。場合によっては50%に上る。
- 土地をすでに購入(仮登記)している事業者から、売り抜きたいという、悲鳴に近い声が出ている。
- 農地としてならば、安価に購入できる可能性が高い。

(補) 役所による農家の意向調査(2006年度、500万円)は失敗した。  
本年度は、基本計画の策定(300万円)が決定した。

現耕地面積=120h、農家世帯数=140

専業農家(100a以上)=36%、第1種兼業農家(50a～100a未満)=28%、第2種兼業農家(10a～50a未満)=20%、自給用(10a未満)=16%

# 14. 矢切耕地の可能性

- 千葉大式の植物工場を中心とした未来型農業の先進地区とする。
- 矢切高校跡地とその周辺に中核施設を集める。用地買収は容易と推定される。
- 「千葉大式の植物工場」と「ファーマーズ・マーケット」を中核にすえる。  
参考: [http://www.udc-net.co.jp/list\(localpower\).htm](http://www.udc-net.co.jp/list(localpower).htm)  
<http://www.ja-shizuoka.or.jp/topia/event/market/index.html>
- 植物工場は、薬草、ハーブなど、特徴ある作物の苗を供給する。  
参考: <http://www.yakuouen.com/>
- 食材工業、食品工業、薬草加工場などを廃屋跡地や周辺地に配する。
- 農業法人(株式会社など)を設立する。

# 15.P-S環境との調和

- 「川のレクリエーション交流拠点」にする。
- 新設する農業法人の事業にする。
- 「未来型農業」と「食材・食品・薬草加工業」を軸にする。
- 江戸川河畔、坂川花の街道、じゅんさい池、植物工場、ファーマーズ・マーケット、薬草園、観光農園、市民農園、野菊の墓、などを巡回する散歩道を用意する。
- 6号線からの引き込み道路、坂川花の街道、江戸川河畔道路を整備する。

# 16. 農業法人について

- 千葉大園芸学部との関連を明確化する。独立行政法人国立大学も株式会社等への出資は可能。特区にすれば、支障がない。
- 理事長(または社長)は、歴代学部長経験者を就任させる。2-3代に限定して、後は内部から抜擢人事。  
最初は、アカデミック主導、後は経済民主主義。理事長(または社長)は、いずれにせよ、一定の出資をする。退任時に返却。
- 種子・苗・工場製品の販売、ファーマーズ・マーケットの運営、レストラン・保養施設の運営、・・・など。
- 出資者(期待)＝松戸興産、山崎バン、宝酒造、中村屋、ツムラ、キッコーマン、セコム、・・・。

終わり